

住み慣れた自宅で最期を迎えるために、
介護職としてできること

訪問介護ステーション輪
管理者 酒井 雅子

本日の内容

- 在宅介護を支える仕組みと介護職の役割
- 心の支援と介護職の専門性
- 多職種連携での留意
- ケアマネジャーとの連携

在宅介護を支える仕組みと介護職の役割

- 在宅介護を継続させるためには、
→ 「ご本人・ご家族・サービス事業所」の三者のバランスと連携が重要
- 家族介護者の負担軽減と介護の継続性
- QOL（生活の質）の維持・向上

在宅介護を支える仕組みと介護職の役割

- 訪問介護員の専門性
- 予防的視点の必要性

→ 「在宅介護を長続きさせることができ、最期までの生活支援を尽くすことができる」

在宅介護を支える仕組みと介護職の役割

- 40年のヘルパー経験を振り返って…

昔は、

支援体制や環境が整っていない中、自宅に帰るのが当たり前だった。

今は、

支援体制や環境整備は整っている。

だけど、

「在宅はムリ」という選択になっていないか？

本人、家族の思いは叶えられているのか？

心の支援と介護職の専門性

- 「身体のケア」と「心のケア」
- 本人だけでなく家族介護者も孤独感や介護疲れ
- 心理的サポートの担い手
- 要介護者の発する言葉の裏には死への恐怖や不安、生への執着
- 終末期ケア（ターミナルケア）の知識と視点

多職種連携での留意

- 情報共有とそれぞれの立場の理解
- サービス実施記録や連絡ノートの使用
- 互いの職種の事情を踏まえ、業務にあたる必要性

ケアマネジャーとの連携

- ケアマネジャーと関係づくりが在宅支援の質を左右する
- 「身体介護」「生活援助」「精神的支援」の3本柱
- 訪問介護員の役割
 - 「利用者の生活機能の維持と自立支援を目的とした専門的援助」
 - 本来の介護保険の趣旨は「利用者ができることは利用者の手で」という視点

おわりに

「住み慣れた自宅で、その人らしい最後を迎える」

→それを支えるのは、制度でも施設でもなく、現場で日々関わる私たち介護職一人ひとりの実践力

→利用者の「生」に向き合う専門職として、これからも学び、成長し続けていく